ふくはら子どもエコクラブの１年
－楽しく学びよく遊ぶ１年間の活動報告－

今年のメンバーはお友達に呼び掛け合って 20 名となりました。その構成は幼児から中学生までの幅広い年齢となりました。サポーターは 5 名で、川越市を窓口にしてこどもエコクラブ全国事務局に登録して活動を行っています。

今年のテーマは「楽しく学べる身近な自然と農業」でトウモロコシや大根の収穫体験や落葉掃きを通して循環型農業を行う農家の支援と雑木林の手入れと再生のお手伝い、遊びを通じての自然の観察、林の管理と枯れ木の焼却とオキ火の活用でエコ活動と農業支援を結合させた活動を年間通して推進しました。

サポーターで年間計画を話し合い、子どもたちの希望も踏まえての年間活動を計画します。

計画は、キャンプやハイキング、虫の調査、トウモロコシの収穫体験など子どもたちが希望する活動を中心に循環型農業の支援や環境学習を盛り込みました。また、活動を積極的に発表するために埼玉県が実施するこどもエコフェステバルに参加し、身近なエコ活動の取組を気軽に発表できる「エコ発表会」も予定しました。

ふくはら子どもエコクラブ　活動計画2023

月	活動項目	主な活動	目標
4月	入エコ式	林の散策、タケノコ堀、ダイコン収穫	林を知る
			タケノコを掘る
			ダイコンの収穫
5月	林のキャンプ	林の自然を体験する	テントの設営
			調理を自分でする
			林の夜を知る
6月	エコ活動発表会	川越市と共催で実施。家族で行っているエコ活動の発表	ポスターを作る
			皆の前で発表する
			質問に答える
	トウモロコシの収穫体験	農家の仕事を知り収穫を行う	農作業を見る
			収穫を学ぶ
			林でゆでて旬を試食する
7月	林の虫しらべ	林を歩いて虫を探し、名前を調べる	昆虫を捕獲する
			講師や図鑑で名前を調べる
			どんな環境にいるか見分ける
8月	市研修会	環境科学国際センター.・さいたま水族館	環境問題の学習
			実施体験
9月	秋のハイキング	異なる自然の観察と体力の育成	電車とバスにのる
			生きものを探す
			皆と協力して歩きとおす
10月	林の手入れ	林を整理して活動しやすくする	木の伐採
			七輪で火おこし
11月	こどもエコフェスタ	1年間の活動を発表する	皆の前で発表する
			環境について学習
12月	植樹	里山再生の活動に参加	苗木を掘る
			コナラを植樹する
1月	くずはきとトン汁	循環型農業の支援と有機野菜の試食	落ち葉掃きの体験
			農家のたい肥置き場の見学
			地元有機野菜の活用
2月	ネイチャーゲーム	林を知りながら自然を体験する	1年間の成果を確かめる
			じっくり観察する
			自然の素材を使った遊び
3月	林で遊ぶ	きれいになった林で自分の遊びを	林をきれいにする
			林を歩いて確かめる

この計画は、県の子ども活動育成助成金を申請するときに必要であり、また 3 ケ月に 1 回の「エコ通信」を発行しながら、微調整しつつメンバーや天候などを考えながら実施しています。

今年は「エコ通信」を LINE で発行して保護者への会報配布の負担を軽減し、メンバーへの連絡を迅速化し、参加希望者の把握をすばやくすることができました。

１月　コナラの植林とオキ火でモチ焼き

荒れた林をもとの雑木林に戻すお手伝いをしました。福原水と緑の会が主催したコナラの植樹に参加しました。別の林で採集したコナラの苗木を運んで、下草が刈られた林に穴を掘って苗を丁寧に植え支柱をそえると完了です。今年は皆で協力して１０本以上の苗を植えました。

終わってから林を移動して、林の枯れ木を燃やしてたき火をします。できたオキ火でシノ竹に挟んだ餅をゆっくり焼いて食べました。

２月　循環型農業を支援する「くずはき」と地元野菜での豚汁

枯れ葉が落ちると「くずはき」（落葉掃き）をします。雑木林の落葉は畑の大切な肥料となり、これを使う「落葉掃き農業」は”日本農業遺産”にもなっています。今までは農家の「たい肥置き場」に運んで「たい肥作り」のお手伝いをしていましたが、今年はプロが運んでしまって余った落葉を集めて林の中でたい肥作りを体験しました。

作業の方法は、伝統の熊手を使い落ち葉を集めて、シートやカゴにつめて林の中の１カ所に集めて積み上げます。みんなで落ち葉の上に乗って飛ばないように踏み固めます。

あとは雨と微生物やカブトムシなどの力で１年かけると良いたい肥になります。

作業終了後は、落ち葉堆肥で作った地元の野菜を使ったトン汁で冷えた体を温めます。今年は、冬に美味しい長ネギを炭焼きしました。が子どもに好まれないのか食べた子は数人でした。

３月　遊びながら学ぶ林と自然

林と自然を知るためにネイチャーゲームをしました。専門の講師に来てもらい、チェックシートを持って林を歩いて早春の生きものなどを探します。

４月　新メンバーを加えて新たな活動へ

林の中を歩き私たちのフィールドを確かめます。冬に太い枯れ木を燃やしたので林は歩きやすくなっています。初めに林のそばの農家を支援するためにダイコン掘りをして、エコバックで運びます。次に、林の再生をお手伝いするためにタケノコを掘ります。モウソウ竹は林の樹を枯らしますのでタケノコのうちに採り竹を増やさないようにします。

掘ったタケノコは林の中でたき火をしてすぐに茹でます。タケノコの“あく”を抜くために川越産の「耕福米」の米ぬかを使いました。両方とも地産地消で農業の支援となりまた、枯れ木を燃やしているのでエコ活動となります。

５月　林でのお泊りキャンプとクリーン活動

虫がいなく気候が穏やかな５月中旬に林でのお泊りキャンプをします。毛布や洗面道具などを持ち寄って集まります。雨の予報もあり調理をする場所に雨除けシートを張ります。集合してから設営班と買い物班に分かれてキャンプの準備をします。

テントを設営してからマキ集めをします。買い物も終わったら荷物をテントに入れて、キャンプのスタートです。

たき火に「飯ごう」をかけてご飯をたき、肉は串焼きにします。野菜はダッチオーブンで

調理しました。

串焼きはオキ火で焼いて食べます。食後はテントで交流会。夜遅くまでにぎやかにすごします。夜の林は暗いのですが、ライトを持って林の中を走り回って楽しみます。

翌朝は寒いので早起きしてすぐたき火。あくびをしながらの調理、完成した朝食はたき火を囲んで皆で食べます。大勢で食べることと自分で作ったごはんの味は格別です。

朝食後一休みしてから林と道のクリーン活動をします。毎年行っていますが、ゴミの量は変わりません。オヤツにピザを焼いて食べ終わってから楽しいキャンプは終了です。雨も降らずに楽しく活動できました。

６月　スゴロクで学ぶSDGｓと我が家のエコ活動

雨の多い６月、環境月間でもあり室内のこどもエコクラブ活動です。前もってポスターにまとめた自分家のエコ活動について報告してもらいます。今年も環境政策課との共催で会場は福原公民館。今年は参加者が少なくスゴロクを使った環境学習を行いました。時間はかかったが最後に大いに盛り上がった発表会でした。

７月　旬体験と郷土食のうどん

農家の支援と野菜の旬を味わうトウモロコシの収穫体験をしました。農作業を見学してから畑でトウモロコシのもぎ取りを行いました。これを林に運び枯れ木でお湯をわかして蒸したてを試食します。フードマイレージゼロの活動です。

次に郷土食の「うどん作り」をしました。埼玉産の地粉から練って延ばして切る作業の手作りしてゆでて食べました。

７月　夏の昆虫調べ

林の自然を知るために昆虫が多い夏に専門家に来てもらい虫しらべをしました。捕虫網の使い方を教えてもらってから、林の中に。樹液や木の幹・葉の上を調べます。捕まえた虫は観察カップに入れて虫のきらいな子にも見せます。林にいつもいる昆虫だけでなく珍しい虫も見つけました。

８月　クイズで真剣、環境学習

市の研修会で、さいたま水族館と環境科学国際センターに行きました。水族館ではアオウオに餌をやり、館内を回って埼玉の魚について勉強しました。キッズルームで水の生きものクイズに挑戦しました。昼食後、環境科学センターに移動して、人間発電やエコドライブを体験しました。

９月　秋のハイキングは雨のために中止となりました。残念

10 月　苗木の採集、林の手入れと焼きおにぎり

いつもの林から移動して別の林で苗木の採集と林の手入れをします。林で芽生えたコナラの苗木を掘りだします。次回の林の植樹に使います。次に境界に生えて、落ち葉掃きの邪魔になる木を伐りました。ロープを引っ張り根元から伐り倒し、枝を切り取って林のわきに積み上げます。これで下草刈りの準備ができました。

終わってから、川越産の耕福米をたいてご飯を作り、それを自分でおにぎりにします。七輪で炭をおこします。金網を敷いてその上でおにぎりを焼きます。両面が焼けたら、しょう油を塗って食べました。

11 月　埼玉県こどもエコフェステバルで発表

１年間の活動を発表するために、バスと電車で上尾に行きました。歩いて会場へ。控室で昼食を食べた後にリハーサルをしてから、ステージで 10 分間の発表をします。

終わってから屋外のブースで体験型の環境問題の学習をし、トランポリンで体を動かしました。

12 月　保存食づくりと手作りソーセージ

冬の寒さを利用した保存食づくりをしました。薄く切ったダイコンとニンジンをザルで干すと甘さが増え長く保存ができる干し野菜ができます。先人の知恵です。次に玉ねぎを混ぜ塩コショウしたひき肉をアルミホイルに入れてオキ火で焼くと手作りソーセージの完成です。

今年も、林の所有者、虫の専門家、ネイチャーゲームの指導者、農家、福原水と緑の会、エコ発表会を共催した川越市環境政策課など多くの人の助けで活動を続けることができました。

とりわけこだわったのは、地元の環境や産業と言った私たちを取り巻く環境に思いをはせて、落ち葉堆肥栽培の地元野菜や有機農法の耕福米の地産地消、枯れ木やそのオキ火を利用したエコ調理、それらの文化としての循環型農法と郷土食を活動の中心にして系統的な活動を行ってきました。

その結果がコナラの植樹による林の再生に少しでも貢献できたかと思います。